滋賀ロケーションオフィス ニュース

第6号　平成16年（2004年）8月10日発行

発行：滋賀ロケーションオフィス
（社団法人びわこビジターズビューロー内）
〒520-0044
滋賀県大津市京町四丁目1番1号
滋賀県商工労働会館　3階
TEL：077-511-5775
FAX：077-523-7555
E-mail：info@shiga-location.jp
URL：http : //www.shiga-location.jp

サポーター登録者数　913人
（平成16年8月1日現在）

湖国の美しい風景のなかで　映画「蟬しぐれ」滋賀県ロケ快調

誰が名付けたか“時代劇のハリウッド”彦根城ほか県内各地で、現在、時代劇映画『蟬しぐれ』のロケが進行中です。

藤沢周平さんの時代小説のなかでも、最高傑作といわれる『蟬しぐれ』。この作品は、東北の架空の小藩・海坂（うなさか）藩を舞台に、藩内の勢力争いで敬愛する父を亡くし、苛酷な運命に翻弄されながらも、武士として一人の人間として成長していく主人公の姿を爽やかに描くものです。

時代劇では所作が大切。エキストラもしっかり演技指導を受けます。

主役の“牧文四郎”役には市川染五郎さん、幼馴染みで、はかない恋の相手となる“おふく”役には木村佳乃さんほか、豪華俳優陣が脇を固めます。監督の黒土三男さんは原作に惚れ込んで映画化を決意、14年越しにその願いをかなえ、熱い想いで撮影に臨んでおられます。

滋賀ロケーションオフィスでは、この映画の製作関係者に対して、滋賀県内でのロケ撮影の誘致に取り組んできました。

7月には、彦根城や八幡堀、湖東三山のひとつである西明寺、西の湖の水郷地帯など、滋賀が誇る素晴らしい歴史遺産や琵琶湖の美しい景観のなかでロケが行われました。

また、武士や町人役として、オフィスのサポーターの皆さんにもエキストラとして出演していただきました。

八幡堀ロケに出演いただいたサポーターの皆さん。町娘も振り向く、いなせな町人3人衆です。

スクリーンの片隅でチラッと映るだけとはいえ、そこはやはり時代劇。かつらを付け、着物を着て、腰に両刀を差せば気持ちはすっかり侍に。現代劇では味わえない時代劇ならではの醍醐味に「これはちょっと病みつきになるなぁ…」との感想もいただきました。

なお、映画は2005年全国東宝系にて公開予定です。

海外映画のロケも続々と

オフィス設立から今年で3年目。業界でのオフィスの認知度も高まりつつあるなか、最近では海外からもロケ隊がやって来ます。

現在、中国映画の製作関係者が、作品にふさわしい撮影地を求めて県内でロケハンを重ねています。映画は、戦前に14歳で来日し、戦中から戦後の激動の時代を生き抜いた不世出の棋士「呉清源」を主人公とした物語です。

この映画のプロデューサー　元持昌之さんは、これまでに大島渚監督の『戦場のメリークリスマス』や篠田正浩監督の『瀬戸内少年野球団』など日本を代表する多くの作品にたずさわるなど、世界に向けた映画作りに取り組まれています。「今までに多くの映画が京都で撮影されてきましたが、ロケーション的には既に開拓され尽くして行き詰まっています。その点、滋賀は掘り起こせば魅力的なロケ地がまだまだ眠っているのではないでしょうか。琵琶湖という自然環境に恵まれ、歴史遺産や文化遺産も豊富な滋賀は、今後、ロケ撮影のメッカになる可能性が十分あると思います。」と元持さん。

映画は10月末からの撮影を目指しています。映画を通じて滋賀が広く海外で紹介される絶好の機会であることから、オフィスではロケの実現に向けて、映画のロケーションとしての滋賀の風景の素晴らしさを精力的に紹介しています。

県内で精力的にロケハンを行う元持さん（左端）

2006年NHK大河ドラマ『功名が辻～山内一豊の妻～』に決定！

2006年のNHK大河ドラマが、戦国時代に武将・山内一豊の立身出世を支え、「内助の功」で知られる妻の千代を主人公とした『功名が辻～山内一豊の妻～』に決定しました。

県内には千代の生誕地とされる近江町、一豊が領主となり武将としての出発点となった虎姫町や長浜市など、一豊と千代にゆかりの地が数多くあります。オフィスとしては、大河ドラマの舞台として、これらの地域を広く紹介していきたいと考えています。司馬遼太郎さんの同名小説を原作に、主人公の千代役は仲間由紀恵さん、一豊役は上川隆也さんが演じます。

一豊が2万石の城主となった長浜城

ハリウッドは時代劇ブーム

日米合作映画『SAKURA~Blue Eyed Samurai~』

昨年公開された映画『ラスト サムライ』（トム・クルーズ主演）は、渡辺謙さんがアカデミー賞最優秀助演男優賞にノミネートされるなど、海外でも高い評価を得ました。その大ヒットを受けて、アメリカの映像制作者は今、日本の時代劇に熱い視線を注いでいます。

このほど、彦根城と八幡堀でロケが行われた日米合作映画『SAKURA～Blue Eyed Samurai～』も日本を舞台とした作品です。幕末、牧瀬里穂さん演じるアメリカ領事の妻・千野と娘のさくらが、攘夷思想の侍たちと戦いながら、逃亡の旅の中で成長していく様子を描いたアドベンチャー時代劇です。彦根城での御前試合のシーンや八幡堀での波止場のシーンでは、大がかりなセットを組んで迫力ある映像が撮影されました。

海外からの撮影は、びわこビジターズビューローで進めているインバウンド事業（海外からの観光客を誘致すること）との相乗効果も期待されることから、オフィスでは今後とも積極的に取り組んでいきます。

ロケ紹介

ロケ地は業界人気の撮影スポット

映画『パッチギ!』シネカノン

独自の批評眼で、歯に衣着せぬ辛口コメンテーターとしても人気のある井筒和幸監督の最新作『パッチギ！』の県内ロケが、５月に行われました。

この作品は、昭和43年の京都を舞台に、日本人の高校生と朝鮮学校の少年達との友情と夢と挫折を描く青春群像劇です。

草津市の旧県立短期大学校舎では、日本人の主人公が通う高校のホームルームシーンや朝鮮大学校に見立てての ロケが行われました。県内ではこのほか、大津市内の私立高校や病院、ＪＲ草津線を走行する列車内でもロケが行われています。

また、京都や大阪で行われたロケにも、オフィスのサポーターの皆さんがエキストラやボランティアスタッフとして、自主的に協力しました。

ところで前作『ゲロッパ！』に続き、『パッチギ！』という聞き慣れない不思議なタイトル、ケンカ用語「パチキ（頭突き）」の語源となった「突き破る、壁を乗り越える」という意味のハングルから。日本と朝鮮半島との関わりという重いテーマと向き合って“心の鼻血”を出してほしい、という監督の想いが詰まったタイトルです。

映画『あずみ2』東宝

「前代未聞の200人斬り」の大立ち回りなど、斬新なアクションが話題となった時代劇映画『あずみ』の続編、『あずみ２』の撮影が行われました。

この映画の見せ場であるアクションシーンのロケ適地を探していた製作者に対し、オフィスで積極的な情報提供を行った結果、６月に竜王町内でのロケが実現しました。

映画は、戦国末期に最強の刺客として育てられ、前作での激しい闘いを生き抜いた上戸彩さん扮する美少女剣士あずみが、太平の世に戦乱を求めて暗躍する勢力と再び闘いの刃を交える、というものです。

ロケは、所有者のご好意で私有地を特別に借り受けて行われました。山裾の起伏に富んだ広大な土地は地肌がむき出し、荒涼とした雰囲気はアクションシーンの撮影にはぴったりの場所です。あずみとともに闘う剣士たちが敵の忍者集団と死闘を繰り広げるシーンでは、火薬を使用して土煙を上げる演出も行われるなど、迫力あふれるシーンが撮影されました。

この作品は、全国劇場で来春公開予定です。ぜひご覧下さい。

映画『火火』来春公開に向けて完成間近！

前号でも紹介した滋賀が舞台の映画『火火』は、信楽町で５月上旬にクランクイン、県内各地でロケを行い、６月中旬に全撮影が終了しました。

主演の田中裕子さんと窪塚俊介さんです。

オフィスは、ロケ地の調整からサポーターによるエキストラ募集まで、ロケ全般に関して支援を行いました。約１ヶ月半にわたるロケには、サポーターを中心に延べ200人を超える皆さんがエキストラとして出演されたほか、撮影拠点が置かれた信楽町では、有志による“映画「火火」を支援する会”がロケ隊をバックアップしました。

現在、映画は来春の公開に向けて編集作業が進んでいます。

オフィスでは、この映画を通じて、信楽焼の美しさや滋賀の魅力が全国に発信できるものと期待しています。

なお、完成後は全国公開に先駆けて、県内映画館での先行上映が決定されています。

「火火」製作委員会では、現在、製作協力券を発売しています。前売券よりもお得な一般券1,200円、小人・シニア券800円で、10月末日までの期間限定販売。ワーナー・マイカル・シネマズ近江八幡を除く県内の各劇場窓口や平和堂主要店で好評発売中です。

映画『火火』
焼き物の里・信楽を舞台に、息子の発病がきっかけで骨髄バンク運動を始めた陶芸家の神山清子さんがモデルの人間賛歌。映画では、滋賀の風景や信楽焼を背景に、母子と二人を支えた周囲の人達の姿が感動的に描かれます。主演は田中裕子さん、日本の映画界に欠かせない実力俳優が共演します。

映画で地域の再発見

記録映画『悠久のロマン 古墳と観音の里』

今年12月に町制施行50周年を迎える高月町で、いま町をあげて記録映画の撮影が進んでいます。高月町は古来、畿内と北陸・東海地方を結ぶ要衝であり、早くから仏教文化が大いに栄えました。

作家の井上靖さんが、「東洋のミロのビーナス」と讃えた渡岸寺観音堂（向源寺）の国宝十一面観音像。日韓交流の先達として、江戸時代に朝鮮国との善隣外交に尽力した儒学者の雨森芳洲やヤンマーディーゼルの創始者となった山岡孫吉。また、旧暦の正月頃に五穀豊穣と村の安寧を祈願して、村ごとに行われる行事「おこない」は学術的にも大変注目されている民俗行事です。

映画は、そうした高月町の貴重な歴史・文化遺産や先人の歩みなどを、四季折々の美しく豊かな自然とともに紹介するものです。映画製作は高月町が事業主体となり、脚本・監督を同町出身の映画監督 片桐直樹さんが担当。昨年秋にクランクイン、来春の完成・公開を目指しています。

オフィスでは、映像を通じて地域を再発見し、その素晴らしさを次世代に語り伝えていこうとするこの映画に対して撮影協力を行っています。

ロケ紹介

ドラマ『海峡を渡るバイオリン』

フジテレビ

様々な苦難にも屈せず、独学でバイオリンづくりに取り組みながら、ついにはバイオリンづくりの世界的名匠となった在日韓国人の半生が、この秋フジテレビでドラマ化されます。

主人公のバイオリン職人陳昌鉉さんを演じるのは、SMAPの草彅剛さん。

オフィスのサポーターをはじめ40人近いエキストラが参加して、彦根市の滋賀大学経済学部のキャンパスでロケが行われました。撮影シーンの設定は1950年代・秋のため、撮影当日は７月の猛暑にもかかわらず、エキストラは全員学生服やカーディガン姿です。その上、ロケ現場となった講堂内は冷房設備が無く、大勢のエキストラや撮影機材の発する熱も加わり、じっとしているだけでも汗が流れるほど。そうした中、バイオリン演奏に聴き入る聴衆役として、サポーターの皆さんには終日堅い椅子に座りっぱなしで撮影に協力いただきました。

このドラマはフジテレビ開局45周年企画として、名作『北の国から』を手がけた杉田成道監督が演出を担当し、同局が総力をあげたドラマとして11月27日に放送予定です。

“サポーターの皆さんから”

「何より良かった事は、雰囲気のある大正建築の講堂でバイオリンとピアノの生演奏が聴けた事と、本物のストラディバリウスの演奏記録映画を見られた事です。なかなかこんな機会は、お金を出しても無いのではないでしょうか？（とても暑くてつらかった事は置いておいて）私自身、50年前にタイムスリップした様な、とても楽しい気分が味わえた事も楽しみの一つでした。」（小堀千歌子さん）

♥　♡　♥

「杉田監督の長〜いカットには、暑さもプラスして少々ぐったりしてしまいましたが、観ていた側から作っている側を体験でき、本当に良かったです。参加すると作品に対する思いが違うなあと感じています。11月の放送まで待ちきれない気分です。」（原田由紀子さん）

♥　♡　♥

「衣装もあり、髪の毛までセットしてもらったのも初めての体験で、女優（？）ではないけれど、いつもと違う自分になれて、しかも大好きな草彅さんと共演できて本当にうれしかったです。」（中島まゆみさん）

『遠くへ行きたい』

第1717回「会いたい見たい六輔の夏休み」
—滋賀県大津市〜マキノ町－
平成16年８月15日㈰ ７時30分〜８時00分 放送予定
よみうりテレビ（10ch）

旅する人は永六輔さん。通常の観光ルートとは一線を画した、人と人とのふれあいを大切にする永さんならではの「味わい深い滋賀の旅」です。

8月のオンエア情報—どうぞお見逃しなく

お待たせしました！滋賀が舞台のサスペンスドラマです。経営不振の温泉旅館の立て直しを請け負う坂東三津五郎さん扮する温泉旅館コンサルタントが、推理をめぐらし事件に挑みます。共演は角野卓造さん、池上季実子さん、またエキストラとしてオフィスサポーターも多数出演しています。

月曜ミステリー劇場

『湯の町コンサルタント3〜琵琶湖真珠殺人事件』

平成16年８月23日㈪ 21時00分〜22時54分 放送予定
毎日テレビ（4ch）

映画テレビ技術

Digital Production 2004に出展しました

「映画テレビ技術・Digital Production 2004」は、国内唯一の映画テレビ技術やコンテンツ制作・配信に関する大規模展示会です。この展示会には、最新の映画撮影機材や映像制作システムが一同に出展されるほか、映像制作に係る最新動向がわかる映像フォーラムなどが開催されることから、毎年、多数の映像制作者で賑わっています。

オフィスでは、映像制作者へのPRの機会として、東京ビッグサイトで開かれた展示会にパネル展示や資料での出展を行いました。6月2日～4日の会期中、会場は約2万人の来場者で賑わい、オフィスの撮影支援活動に対して早速反響がありました。

オフィスでは今後とも様々な機会をとらえ、滋賀での撮影誘致を目指したPR活動を積極的に行っていきます。

なお、8月28日㈯・29日㈰の両日、大津市内のピアザ淡海で開催される「第2回湖国アーツ☆バザール芸術総合見本市」にも出展を予定しています。

今年もやります 業界グッズをプレゼント

映像制作者から提供いただいた業界ノベルティグッズをプレゼントします。

ご希望の方は葉書に、サポーター登録番号・住所・氏名・電話番号・希望商品名を明記の上、オフィスまでご応募下さい。（応募先住所はこのニュースの第1面をご覧下さい）

なお、応募多数の場合は抽選で、当選発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

締切は8月31日です。（当日消印有効）

①NHK「どーもくん」ストラップ	1名
②NHK「どーもくん」ボールペン	1名
③NHK「どーもくん」ペタペタMEMO	1名
④フジテレビ「ラフくん」Tシャツ（赤／Woman's／フリーサイズ）	1名
⑤フジテレビ ロゴ入りミニ文具セット	1名
⑥朝日放送「キュキュ」ストラップ	2名
⑦朝日放送「キュキュ」ハンドタオル	3名
⑧朝日放送「キュキュ」ソフトペンケース	3名
⑨TBS「ジーン」水性ボールペン（赤・青・黒の3色セット）	2名
⑩TBS「アテキィーボ・ロック」クリアファイル（5枚セット）	1名
⑪松竹京都映画社ロゴ入りフェイスタオル	3名
⑫びわ湖放送「びびちゃん」ハンドタオル	2名

映画を見るならお忘れなく

サポーターの皆さんにお送りしているサポーター登録証を、映画館の窓口で提示すると入場割引が受けられます。割引対象は、滋賀会館シネマホールを除く県内の各劇場です。

割引料金は劇場窓口等で直接お問い合わせ下さい。レイトショーやレディースデーが利用できない時、何だか急に映画が見たくなった時など、とってもお得なカードです。

オフィスが移転します

滋賀ロケーションオフィスは現在の滋賀県庁内から、9月1日にびわ湖ホール前にオープンする「コラボしが21」内にオフィスを移転します。

オフィスは、滋賀の観光情報の発信をになう㈳びわこビジターズビューロー内の組織として活動していますが、これまで2ヵ所に分散していたビューローの事務所もこれを機に一つとなり、今後は一層の活動強化が期待されています。オフィスのサポーターの皆さん、ぜひ遊びに来て下さいね。

新住所

〒520-0806
滋賀県大津市打出浜2番1号「コラボしが21」6階
TEL：077-511-1537(直通)／FAX：077-523-7555
URL：http://www.shiga-location.jp
E-mail：info@shiga-location.jp
※9月1日以降は、上記住所までお問い合わせ下さい。
なお、FAX、URL、メールアドレスは変更ありません。

私たちは、滋賀の素晴らしい風景や文化などを全国に紹介するため、滋賀ロケーションオフィスの活動を支援しています。

滋賀県信用保証協会	株式会社滋賀銀行
滋賀県興行協会	株式会社びわこ銀行
株式会社ゼンリン	西日本電信電話株式会社
琵琶湖汽船株式会社	株式会社NTTネオメイトみやこ
宮川印刷株式会社	NTTオートリース株式会社
アインズ株式会社	大津プリンスホテル
株式会社TMオフィス	ホテルニューサイチ

（敬称略・順不同）

編集後記

昨年度、オフィスが支援した映画『赤を視る』の完成披露で大阪へ。この作品は全編が滋賀で撮影されました。監督＆キャストの舞台挨拶のあと本編が上映されると、そこには見慣れた風景でありながら、監督の感性を通して見た作品世界が広がっていました。監督のイメージにあわせて最適のロケ場所を探すのがこの仕事。出した答案が採点されて手元に戻ってきたような――映画を見ながら、ふとそんな気分になりました。